

熊本県境を歩く（資料編）

本 田 誠 也

平成10年9月から始めた熊本県境歩きは、3年3ヶ月をかけて平成13年12月に完了した。しかし、地図上の県境線のポイントに赤線が入っていない箇所が少し残っている。それは全体の計画としては、左程重要ではない部分であるが、些か気になるので、今後支部の各季例会の形で補填してゆこうと考えている。ともあれ計画当初の資料と、完了した結果を対比して眺めてみたいと思う。

（熊本県境の概要）

熊本県境の陸地部分は、北の荒尾市から南の水俣市まで、地図上の水平距離は約 407km。高低差を加えて 436kmとした。

九州各県の県境線の長さ(1/50万図から キロメートルで計測)

熊本県(福岡県、大分県、宮崎県、鹿児島県)	360 Km
宮崎県(大分県、熊本県、鹿児島県)	330 Km
大分県(福岡県、熊本県、宮崎県)	240 Km
福岡県(佐賀県、熊本県、大分県)	210 Km
佐賀県(長崎県、福岡県)	190 Km
鹿児島県(熊本県、宮崎県)	160 Km
長崎県(佐賀県)	90 Km

※熊本県境は、県境線の長さ(距離)および隣接する県の数とも九州で1番である。

県境線の地図(国土地院)

1/20万図	1/50,000図	1/25,000図
熊 本	大牟田 荒尾 山鹿 久留米 八方ヶ岳 日田	大牟田 荒尾 関町 野町 高井川 黒木 宮ノ尾 鯛生 立門 豊後大野
大 分	森 宮原 竹田 三田井 高森	満願寺 杖立 湯坪 久住山 坂梨 桜町 豊後柏原 祖母山 高森 馬見原
延 岡	鞍岡 椎葉村 村所 須木	鞍岡 国見岳 不土野 古屋敷 市房山 槻木 田代八重
八 代	加久藤 大塚 佐敷 出水	白髪岳 肥後大野 大塚 大関山 山野 湯出 米ノ津
4	19	34

『県境線となる市町村名』 …4 市、12町、7 村…

荒尾市 菊池市 人吉市 水俣市

玉名郡（南関町、三加和町）鹿本郡（鹿北町、菊鹿町）阿蘇郡（阿蘇町、南小国町、小国町、産山村、波野村、蘇陽町）上益城郡（清和村、矢部町）八代郡（泉村）球磨郡（水上村、湯前町、多良木町、上村、錦町、球磨村）

『県境の広範囲に亘る地名』

筑肥山地（三池山、南関丘陵）

小国盆地（湧蓋山、麻生釣高原、津江川）

瀬ノ本高原

久住高原

波野原（荻岳）

山東原野（白水滝、越敷岳、祖母山系、国見山地）

九州脊梁山地（五ヶ瀬川、黒峰、霧立山地、向霧立山地、市房山）

球磨山地（槻木、白髪山系、間根ヶ平、矢岳高原）

国見山地（国見山、亀齡峠、鬼岳、矢筈岳）

『県境線のポイント』

（計画）（踏査）

山岳（三角点）	-----	79	(78)	宮ノ尾山
山岳（標高点）	-----	172	(103)	下切山、一里山峠、万年青平ほか
峠	-----	32	(32)	
水系（河川、渓谷、ダム、海）	-----	26	(26)	
		309	(237)	

はじめから県境線を完全にトレースすることは考えていなかった。信濃支部の場合も『最初の計画では県境線をトレースするつもりであつたが、道がなく通過不能で迂回した場所もあった…』と記しているし、また越後支部では『原則として県境のトレース、但し通過不可能な部分は、県境線の両側500mを許容範囲とした…』としている。熊本県境の場合は、県境尾根筋に明確なルート(山道)がある時は必ず歩いたが、そうでない部分については、例えば尾根の突起にある標高点(山名のない…)などは省略した所もある。ただし県境線が水系(河川、渓谷、ダム)または道路の場合は、自動車により踏査した箇所もあった。特異な県境線として、北東部の阿蘇郡波野村、高森町の区間は、阿蘇外輪山を東へ流れる多くの河川を横断しておりまた県北部の小国盆地周辺と県南部の球磨山地では、河川そのものが県境となっている。古い情緒のある峠は少なくなったが、筑肥山地や脊梁山地、および球磨山地の一部には残されていた。一連の縦走形式ではなく、月例会として熊本市から往復したので、トータルでは12,000Kmを超える長距離ドライブとなった。

『県境の山』3月例会

平成13年4月4日(水)

区間番号(55)熊本県球磨郡多良木町/宮崎県西諸県郡椎木村

1/2.5折『槻木』『田代ヶ八重』

赤木山 ΔI 909.7m 市ノ俣山 ΔII 880m

踏査者 本田誠也

3月25日に実施する予定だったが雨のため中止した。快晴の4月4日、急に思い立って一人で行くことにした。熊本県の南東端にある槻木地区までは熊本市から九州自動車道を経由しても片道150Kmもある。山登りより、このドライブの方が疲れる。

10:00 熊本(松橋ICから九州自動車道に入る 82Km) 11:30 山江PA(人吉ICから広域農免道路に行く) 12:20 湯前町『湯楽里』(ゆり)に立ち寄り…多良木町久米から県道43号線経由 12:40 槻木峠 ΔI 750m …東南に流れる槻木川に沿い、槻木地区を縦貫する。13:05~13:20 御大師(大師堂で昼食休憩)

この大師堂は応永19年(1412年)今から600年前に創建されたと伝えられるがその当時に植えられたコウヤマキと、イチョウの大樹がある。案内板によると、昭和44年3月、県指定天然記念物のコウヤマキは、幹囲 4m 樹高 31.5m また昭和36年7月、町指定天然記念物のイチョウ(雌株)は幹囲 5.5m 樹高 39.3m とあった。御大師から約1Kmでガタノ谷分岐に架かる新西郷橋を渡る林道工事中通行止めの標識が立っているが、工事期間はとっくに過ぎているので構わず車を乗り入れる。ガタノ谷

に沿う未舗装の林道(南槻木線)を南の県境へ向けて車を走らせる。県境稜線から派生する尾根は、皆伐されて丸裸。まだ植林されていないので、所々に土砂崩れの跡が痛々しい。林道分岐から舗装道路となり、西へ赤木山の山腹を巻いて延びている。14:00 赤木山山頂へ最短コースと思われる地点に車を置いて急峻な尾根に取り付いた。藪の薄い所を選びながら這い登る。40分で上部の林道にでた。林道を暫く歩いて南西に廻り込み、ヒノキ植林地の緩、斜面に踏跡を見つけて登る。15:05 ほぼ平坦な山頂に着いた。2等三角点が設置されているが、登山者は来ないと見えて標識に類するものは何もない。ヒノキ林に覆われて展望はない。南へ細い県境尾根を下る。宮崎県側は雑木林、熊本県側はヒノキ林となっているが可なり急な下り。左手下部に林道を見て強引に藪わけする。15:20 林道に出て東方の市ノ俣山を目指す。林道上からは市房山や石堂山、先日登った千本山などがよく見えた。県境稜線は意外にアツブダウンが多い。どれが市ノ俣山か解らないが、山肌を切り裂いて林道がずっと先までのびているのが見える。15:50 林道分岐に出たが、藪分けして山頂を探索するには時間が足りないと判断して下ることにした。未舗装だが路面のよい林道を、幾度が大曲りしながら快適に下る。それでも小一時間かかって、16:45 やっと駐車地点に辿りついた。結局、市ノ俣山には登らなかったが県境線をしっかり眺め渡せたことで良しとすることにした。

『県境の山』4月例会

平成13年4月15日(日)

区間番号(56)(57)熊本県上村・銀木/宮崎県
瀬頭村

小白髪岳 ▲ 1183.1m 一本杉 812m

1/2.5万図 小白髪岳 瀬頭村 田代ヶ八重 免田

踏査者 本田 田上 丸尾 中村(主)
菅 加藤(副) 6名

小白髪岳は、厳密には県境の山とは
云えない。県境線は東麓から南麓へ流
下する一本杉谷(岩瀬川支流)だから
である。西側にある球磨三名山の一つ
白髪岳(1417m)はよく登られているが
小白髪岳に登る人は殆どいない。九州
自動車道の山江SAに定刻9時、今回の
参加者6名が集合し直ちに出発する。
球磨川右岸につけられたフルテロードを
經由して免田町から県道260号線に入り
免田川の請願寺ダムの左岸を通り、上
村の皆越地区の台地(460m)に上がる。
10時、休日で森閑とした上村小皆越
分校の門際には、シャクナゲ、ミツバ
ツツジの花盛り。細い林道を約20分
で小白髪岳北麓の林道分岐(約850m)に
着いて車を置く。ヒノキが植林された尾
根に取り付いて登る。約20分ほどで抜
採跡のススキが茂ったピーク(約1000m)
に着いた。『三ヶ八重』と記された小さな標
石が埋められている。前面の窪地に一
本の大杉が立っているので下って見
ると『山の神』の小祠が鎮座していた。
中を覗いてみたが御神体は見えない。
風に飛ばされたのか、小祠も細いロー
プで確保されていた。ここから山頂に
向かって、広いヒノキ林の斜面を登る

下草がないので何処でも歩けるが、
南北に長い山頂部の西斜面は冬枯れの
ススキを分けて這い登る。12時15分
三等三角点が置かれた山頂に着いた。
30mほど南側が3~4mほど高く最高
点らしいので行って見る。南東方に
韓国岳から高千穂峰まで霧島連山が
近々と見渡せる。東側、米良の山々
も一望である。西側、眼前に白水谷
を挟んで白髪岳、国見山が大きく横
たわる。ブナの大樹の下に車座にな
って弁当の包みを開く。滞頂一時間、
ススキを分けて往路を下る。地図に
ある点線の小道(踏跡)を北進すると
30分で『山の神』に下り着いた。こ
こから谷沿いのルートをとったが、
程なく行き詰まり左手の尾根に登
り直して、やっと林道に出ることが
出来た。北へ林道を暫く歩いて14
時25分、駐車地点に帰り着いた。

15時、地図にある県界の『一本杉』
を手分けして探し出した。県界標識
は見付からなかったが、東からの県
境線はここから鋭角に西へ曲がり、
さらに南へ折れて一本杉谷に沿って
下っている。大杉の下には、かつて
小屋が立っていたのか茶碗の欠片や
一升徳利の破片が散らばっていた。
時間が過ぎたので予定を変えて多
良木町と須木村の県境線を北上し、
平谷川に沿って槻木地区に下る。こ
の辺り、過疎化の見本のような廃
屋が目について寂しい。県道143
号線に出て槻木峠を越え、人吉盆
地に下る。折よく花期を迎えた免
田町の丸池に立ち寄り『リュウキン
カ』の花を鑑賞する。ここからの市
房山の雄姿は素晴らしい。流石に
球磨随一の名山の風格十分である。
(本田・記)

『県境の山』 5月臨時例会

平成13年5月5日(土)

区間番号(56)(57)(58)

熊本県球磨郡多良木町・上村/宮崎県西諸県郡須木村・えびの市

高滝山 ▲ 845.7m 山の神 724m

一本杉 800m 狗留孫神社(くるそん)690m

温迫峠(ぬくみさこ)930m

1/2.5羽 槻木・田代ヶ八重・白髪岳
参加者 本田

前回、残した高滝山に登ることと、狗留孫溪谷の県界線を見るために連休の晴天を利用して出かけた。6時40分熊本市の自宅を出発。早朝の九州自動車道を快適に飛ばし、8時50分には槻木峠750mを越えた。ここは多良木町槻木地区の入り口にあたる。槻木地区は熊本県の最南東端に位置し、その中央部を南東に流れる槻木川は、幾つかの支谷を併せて宮崎県の綾北川に合流し太平洋に注いでいる。この辺りから西へかけて熊本・宮崎の県境線は、屢々分水嶺を離れて溪谷を横断し、或いは溪谷そのものが県境線となる等、異様な様相を呈している。

県道43号線は槻木の中心地、吐合地区452mから西に折れ、支流の平谷川の源流に向かう。猪岳林道分岐で『尻なし橋』を渡ると、5分程で上村(隴)分岐、鶴の才集落に入る。ここで平谷川は寄子谷と荒水谷に分かれる。県道43号線は左手の寄子谷沿いに県界へのびている。第3寄子橋を渡り西へ分岐する林道・槻木南線を行く。724m標高点付近に『山の神』の祠があり車を置く

10時過ぎ、高滝山の西北尾根と見当をつけて微かな踏跡を登る。手入れされていないスギ、ヒノキの造林帯の急斜面をゆっくり登る。約40分で845.7mの3等三角点が置かれた高滝山山頂についた。雑木に囲まれて展望はない。

県境線からやや北に逸れているが、市ノ俣山、赤木山と連なる槻木地区南側の障壁をなす山なので、是非登っておきたい山だった。地形が分かったので下りは早い。再び県道43号線に出て寄子谷左岸の尾根に上がる。尾根上は広い台地684mで、平坦な道路を暫く走り、県境線から東へ転じ須木村境まで行って引き返す。2Kmほどバックして荒水谷作業道(可成り闊)に入り、先日の終点の一本杉まで行く。ここから県境線の一本杉谷を下るつもりだったが、営林署専用林道が施錠されて入れないので、往路を引き返した。これから長い道程となった。須木村上九瀬を経て小林市岡原、えびの市大河平から川内川源流部を北上する。ハヶ峰川の吐合い434mから県界を越えて、左岸の林道を約2Kmで14時30分、狗留孫神社入り口498mに着いた。3台位、駐車できるスペースがあり、参詣案内板がたてられている。林道を200mほど進んで広い谷に下り、不安定な丸木橋を渡って対岸の参道(石段)に上がる。右側の山腹にジグザグにつけられた山道を登りつめると、狗留孫神社がたつ岩盤の下(岩窟)についた。金属製のハシゴを上がり鞍部に出て、裏側からアカマツやツガに囲まれた狗留孫神社に着いた。東側の岩壁の突端まで行くと、眼前

に白髪岳が大きく迫り、木面谷も見下ろすことができた。社殿の壁に懸けられた説明板に『栄西禅師が熊野三所権現を勧請して創建…』とある。昔の人は何故にこのような険阻な山奥に信仰の場を選んだのだろうかと驚く。

下りも、登りとおなじ30分を費やした。16時、白髪狗留孫林道を北へ上がる。途中大きく迂回して陀来水谷を渡り、細い流れとなった木面谷に沿って登りつめる。約6Kmで温迫峠(ぬくみことうげ)に着いた。人吉盆地の展望が開ける。ここから上村の榎田まで、車でもうんざりするくらい長い下りが続く。

『狗留孫峠』

川内川上流部の約10Km、加久藤カルデラ壁の安山岩を深く浸食して基盤の四万十層に達し、断崖をつくる。

下流部はシラス下層の溶結凝灰岩が露出して奇形を見せる…

『えびの市』

宮崎県西端部、霧島山北麓の市。市名はえびの高原に因む。1966年、飯野、加久藤、真幸3町が合併してえびの町となり、70年市政施行。江戸時代は薩摩藩領。北部に九州山地や肥薩山地が連なり、南部の霧島連山との間に加久藤盆地が開け、川内川流域には沖積平野が形成されている。気候は冬季著しく寒冷で大陸性の傾向がある。

えびの高原は県下でもっとも降水量が多く(年々量4,519mm) また多雪である。農業が盛んで良質のえびの米を産するほか、酪農、施設園芸が行われる。

えびの高原と京町温泉郷をはじめ、観光資源に恵まれ、霧島観光の基地となっている。

『人吉市』

熊本県南端、人吉盆地西端の市、球磨地方の中心都市。市名は中世以後の郷村名による。1942年、人吉町と中原西瀬、藍田3村が合併して市制施行。

鎌倉時代に相良氏が地頭として人吉城に本拠を構えて以来、明治維新までその支配下にあり、近世には相良藩2万2000石余の城下町として発展した。

1665年に八代まで下る球磨川水運が開かれ、鉄道が開通する明治末までの重要な交通手段であった。球磨川を挟んで左岸に武家町、右岸に青井阿蘇神社の鳥居前町として発生した町人町が配置され、それぞれ現在の行政、商業地域に引き継がれている。

市中心部に人吉温泉がある。球磨川河畔の人吉城跡をはじめ、平安時代の仏像彫刻、鎌倉時代から近世に至る相良氏ゆかりの史跡、文化財が多い。球磨川下りの発船地で、全国有数の朝霧の発生地としても知られる。

農業(米、葉タバコ、メロン、乳牛、肉牛) 工業(製材、酒造、球磨焼酎) 観光 …『日本地名大百科』より…

『県境の山』 6月例会

平成13年6月17日(日)

区間番号(60)(59)

熊本県人吉市矢岳町/宮崎県えびの市東川北

JR矢岳駅537m・816m △840.8m

△742.6m 矢岳展望所680m

参加者 本田、池崎、太田、能田、

1/2.5羽 『肥後大畑、加久藤』

九州自動車道の人吉ICから人吉市街地を通りぬけ、胸川沿いに国道267号線を南下する。途中古仏頂町から東へ分岐する車道に入る。JR肥薩線のループトンネルがある大野町を経て、さらに6Kmほど南下する。鳩胸川の支流、大川間川の谷間に矢岳町の、下、中、西、東の民家が点在している。やがて、県界の矢岳駅537mに着いた。

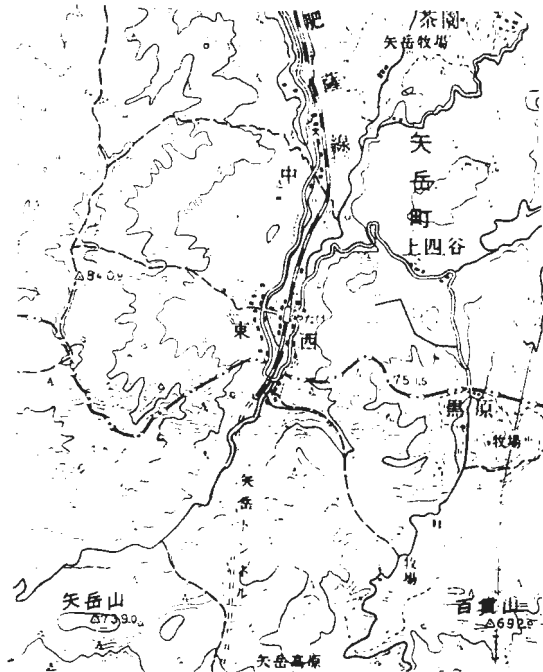
ここには、構内にSL(D-51)展示館がある。先ず西側の県境の山を目指して歩く。標高差300m足らずなので『昼飯前のひと登り』と簡単に考えていたが、手ひどいシッペ返しを喰うことになった。点々と炭焼き窯跡が残る里山だが長い間人が入らぬとみえて酷い荒れよう…手強いヤブを漕いで県境尾根に這い上がり、地図上の841mの三角点を探すが見つからず、心を残して下山する。無人の矢岳駅ホームで遅い昼食をとする。

東側の県境をこえて、茶畑や牧場が広がる矢岳高原に行く。霧島火山を囲む加久藤カルデラの外縁にある展望所から、眼下に蛇行する川内川と霧島山群を見渡す。西側の矢岳山739mに登る

つもりだったが、手前の広いピークはパラグライダーのランディングプラッツになっていて、人だかりがしているのでやめることにした。

県界まで引き返し、黒原の民家の手前から東へ車を乗り入れた。県境線にある743m三角点ピークを目指したが、ルートを誤り南側の作業道に下ってしまった。やがて舗装道路になるが、クネクネと曲がる道は久助谷の上部を迂回して、国道221号線のループ橋に出た。時間も遅くなったので、そのまま人吉を経由して熊本市へ帰った。

この日、最初に登った矢岳町西側のヤブ山で、池崎、太田の二人は吸血ダニに食いつかれ、帰宅後、切開手術をして取り出すという大騒ぎになった。先日の小白髪岳のツツガムシと云いまったく県南の山は剣呑(ケンソ)至極だ。



『県境の山』7月例会

平成13年9月7日(金) …雨天順延のため…
区間番号(61)(62)

熊本県人吉市/宮崎県えびの市・鹿児島県大口市

桑木鶴川 間根ヶ平 AI 893.1m

国見山・800m AV 712.5m

久七峠県界 732m 1/2.5廻 『大塚』

参加者 本田

7月29日の7月例会、8月19日の8月例会とも雨天順延となったので、9月9日に予定している9月例会の前に急遽、区間番号(61)(62)を歩くことにした。間根ヶ平は、人吉市と境を接する宮崎県えびの市と鹿児島県大口市の北側に広がる台地の総称で、一帯は林道や牧場道が網の目のように張り巡らされている。ウィークデイなのでサンデー毎日の一人の踏査となった。

人吉から国道267号線で大塚から胸川の支流、桑木鶴川右岸の狭い車道に入る。桑木鶴集落の手前まで来たところで道肩崩壊で工事中のため、やむなく迂回路をとることにした。これがたいへんな代物で、僅か200mほど先の桑木鶴へ行くのに林道を14Kmも回り道させられた。いや、それだけでは済まず桑木鶴川上流部の県境線を越えて宮崎県側へ深く入り込み、野崎の島津牧場をぐるぐる走り回って(大塚28.29号線)3時間も空費してしまった。やっと桑木鶴に出て廃校前から間根ヶ平林道に入り宮谷川を渡って県界を越し、スギ

伐採が盛んに行われている林道を緩やかに上がる。約2Kmで分岐路を北にとり、500mほどで国見林道分岐の広場に出る。数年前まではここに営林署の作業小屋が建っていたが、今は跡形もない。そのまま、かなり路面が荒れた林道を北東に直進する。約1.2Kmで尾根の鼻を回り込む県界に出る。林道脇のヒノキ林の中にお目当ての可愛らしい4等三角点標が鎮座していた。上空を高々と九電の送電線(人吉-駒)が横切る。国見林道分岐へ引き返したが時間が遅いので間根ヶ平の三角点は割愛して下ることにした。これは県境線でもないもので、このあとに(1995.11.26)の記録を転載することにする。再び長遠な迂回路を引き返し桑木鶴川の吐合いに出て、国道267号線を南下し山合いの別天地、田野町を経て肥薩国境の久七峠まで行く。県界は峠より約600mも熊本側?に入り込んだ所にある。何故こうなったか、昔、大口に住んでいた知恵者の久七爺さんが持ち山の手入れと称して毎日少しづつ境石を肥後側に移したとゆう伝説と当時の薩摩藩と相良藩の力関係にあるとの説もあり判然としない。昭和34年3月に設置された県界石標はヨーロッパの国境標を思わせる頑丈なもので、日本ではここだけのものと説明板に記されていた。帰路は水田の間を小川が流れ、鍵形の民家が点在する田野の集落を通る。

『間根ヶ平逍遥』

1995. 11. 26 桑木鶴川源流の山々
鹿児島県大口市/宮崎県えびの市 2.5万回(大塚)
間根ヶ平 ΔI 893.1m (最高点) 900m
国見山・800m
(参加) 本田、太田

県境の山を按じていた頃から間根ヶ平の地名は知っていた。登山の対象として考えたのは、『くまもと里山紀行』(熊本新聞社 郷土誌)を、読んだからである。その編集後記に、栗原記者は次のように記している。…無名の山を歩いていると、強烈な個性に時々圧倒されそうになることがあった。金峰山や九重の山々などでは感じることでできない山の個性である。どこからこの個性が生まれるのか考えたことがあった。登山者の足跡の代わりに、山仕事の地下足袋の跡。登山道の案内板の代わりに、何気なく立てかけられた造林鎌。ハイキング客の残したゴミの代わりに峠にくすぶったまま残された焚き火の残り火。個性の正体は山を生活の場、精神の場としてきた山人の『心』だと知った。… 成程と合点したが、遥かに長い年月山歩きをしてきた筈なのに観察と思索が浅かったと自省することしきりであった。

(コースタイム) 熊本8:00(九州自動車道 松橋IC 経由 102K)9:37 人吉(国道267号線 12K)9:55 大塚(桑木鶴449m 経由 11K)10:20 間根ヶ平…営林署作業小屋…(国見山林道 0.7K)10:40 国見山

標高800mの山頂部は、雑木林と濃密なヤブに覆われて展望はない。

営林署作業小屋 11:00(自然林の山道)11:20 山の神 …雑木が切られて丸く空が望める広場。アスナロの根元に丸い岩が立ち何やら刻字されている。…文久四年甲子～榎～梅檀乾口婆天鬼神王如月中旬建…とあった。

11:40 間根ヶ平 ΔI 893.1m 南北に伸びる尾根の中間点、雑木林の中で展望なし。北方のピークが高そうなので約500m、美しい自然林の吊り尾根に行く。この辺りはアスナロの群生地で林床もびっしりとアスナロのヒコバエで覆われていた。

11:55 最高点 …巖・榎…12:25(往路を下る)

13:25 営林署作業小屋 13:40(桑木、大塚、人吉由)

16:30 熊本

球磨村(熊本県球磨郡)

県南部、九州山地中の村。中央部を球磨川が西流。村名はこれに因む。

1954年(昭和29)4月1日、渡、一勝地神瀬3村が合併して成立。900~1000mの山々に囲まれる。人吉からの球磨川下りの終点大瀬には九州最大の観光鍾乳洞、球泉洞があり、近くの森林館とともに多くの観光客が訪れる。巻き貝の一種メガロドン化石群産地。江戸時代の伝統を伝える一勝地焼窯元がある。JR肥後線、国道219号線

…日本地名大百科より…

村内の山は、山江村との境に白岩山1002m 北部に1等三角点の山・国見山969mがある。

『県境の山』 9月例会

平成13年9月9日(日)

区間番号(64)(63) 2.5万円(大岡山・大塚)

熊本県球磨郡球磨村・水俣市/鹿児島県大口市

県道15号線(人吉-水俣)県界峠 約700m

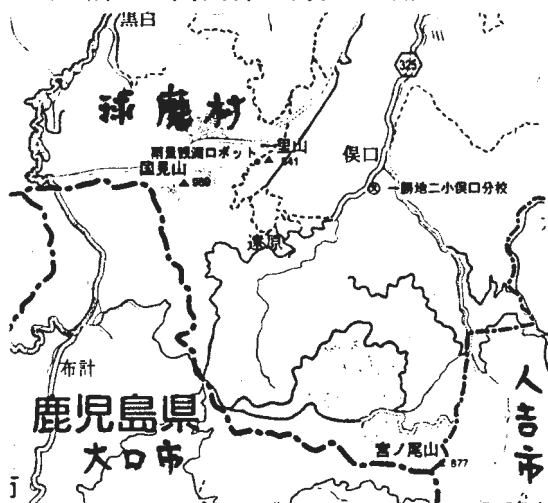
国見山 ΔI(補) 969.3m

参加者 本田

(コストタイム) 熊本=松橋IC(九州自動車道経由)八代IC(国道219号線) 球磨村球磨洞=JR一勝地駅(県道15号線) 茅川左岸沿いに吐合、日隠、中蔵、岳本を経て 黒白366mまで産交バス路線(1日2往復)これより舗装されているがヘビカーブの連続する狭い道。笹の谷にかかる黒白2号橋を渡るとスギ林の昔伐地に出る。一勝地駅から35分で県界の峠(鹿児島県大口市布計を経て熊本県水俣市へ至る)約700mに出る。これより東へ県境線沿いに作業道・国見線に入る。未舗装の砂利道だが所々に舗装区間がある。約2Km 10分で国見山登山口(道幅が広いコンクリート舗装で5~6台駐車可、登り25分)国見山頂に九電のアンテナ鉄塔が設置されているが作業用のモノレール沿いに、階段歩道がつけられている。25分の登りでモノレール終点の広場に到着。フェンスに囲まれた無線中継所のアンテナが立つ。国見山三角点(1等補点)は一段高い右手の岩盤の上にある。雑木に囲まれて展望はない。

国見山は、県南部を東西に連なる国見山地の主峰である。火山岩の露頭が多いことから古期火山であることがわかる。県境線より僅かに逸れているが、県南部を代表する名山である。国見山の登路は、以前は東側の遠原から入るのが一般的であり最短コースでもあった。西の大口市県界から、県境線の岩峰を幾つも越えて行くコースもあったが、今はいずれも荒れて通る人もない。往路をバックする。宮ノ尾山村近の林道を見ておきたいと、北東の一里山の方に下る。500mほどで道路工事の立札がたてられていた。

『舗装工事中 林道第6号 ふるさと村道一里山線 線香山(地内)』とある。線香山とは県道15号線の峠の西側一帯を云うそうで、昔は線香の原料を採取していたらしく戦後しばらくまで山麓には線香工場がいくつもあったそうだ。作業道は約10Kmほどで茂田分岐の起点に着く。茂田は丸く開けた谷間の別天地。稔り豊かな棚田の中に民家が点在し童画に描かれたような風景が展開している。ここから狭いながらも手入れのよい舗装道路となり、『毎味梨』で有名な毎味へ下る。那良川の谷に出て南へ折り返し県道325号線を行く。遠原分岐の俣口に出て南へ白浜林道に車を乗り入れる。那良川源流域の 宮ノ尾山に接近できると考えたからである。この辺り、地図にない林道が幾つも分岐している。高仁田国有林入り口(8林班)の営林署作業小屋を過ぎて3分ほどで新しい砂防ダムがあり、宮ノ尾橋を渡る。林道は宮ノ尾山を廻り込みながらぐんぐんと高度をあげる。路面は極端に悪くなり、両側から草が被り難波する。宮ノ尾山への取り付き点に分からぬまま車を進めるうち『白浜布計線』分岐に出て県境線を越えたことに気付いた。どんどん下っていると林道脇に山仕事の軽四輪が駐車している。『鹿児島』ナンバーなので成程と合点するやがて電柱が立つ舗装道路に出てホットしたが、人家に出会うのは緩く上がって峠を越した所だった。しかし電柱の番号札を見て愕然とした。何と球磨村の遠原だったからだ。白浜林道は両県に跨る環状線だったのだ。この間2時間、こんなに長く林道を走ったことはなかった。ラウンド宮ノ尾山 ΔII 877m いつの日か再見ということにして帰路についた。今回は『白浜林道彷徨』と云うことか……



『県境の山』10月例会

平成13年10月14日(日)

区間番号(65)(66) 熊本県水俣市/鹿児島県大口市

山小場県界 472m ΔN 565.1m

亀齢峠 ΔII 578.5m 2.5万図「山野」

参加者 田上(敏、耕子、敏一) 3名

この区間は、亀齢峠を除いて登山の対象となるような山はない。今回のような県境踏査でもなければ、恐らく訪れることはないだろう。国道3号線の水俣市古城から国道268号線に入り、山小場県界に着いたのは午後1時をだいぶ過ぎていた。時間も遅いので国道北側にある二ヶ所の三角点は割愛して亀齢峠側へ廻ることにした。県界には大口市の道路標識があり、100mほど進むと亀齢峠への道を分ける。472mの水準点は道路右側の一段低いところにあった。車で5分ほど進むと森がきれて明るい草原の台地に出た。左に牧場と民家があり、すぐに三差路に出る。山側に沿って廃道化した林道が延びており車を置いて歩く。300mほどで広い草原に出た。南側の展望が開け、西南に北薩の紫尾山、南東に大口市街地と霧島連山が見える。草原の境界に沿って進み、ヤブの薄いところから杉林の中に入り、200mほど登ると565.1mの四等三角点があった。杉林に囲まれて展望はない。車に戻り次の三角点を目指す。地図を按ずると565mの三角点は五女木牧場の直ぐ北にあり、簡単に行け

ると思っていたが、この付近の牧場はほとんど養鶏場になっており、防疫上の理由からか入り口のゲートは閉じられ『立入り禁止』になっている。たまたま出てきた従業員らしい人に声をかけると、大隅半島の方で鶏の伝染病が発生したとかで外部の人は立入り禁止になっているという。かなり神経質になっており私たちと話すときも、10mくらい距離をとって話していた。やむを得ず牧場の境界線を辿って行けないかとルートを探したが、ヤブが密生して困難とみて断念した。昔の『薩州大口市往還』と思われる道を辿って県境に出たあと、陽も少し傾いてきたので次の亀齢峠へ向かうことにする。2Kmほど走って亀齢峠の入り口に車を置く。小さな案内板がたっていたが木陰で分かりにくい。しかし遊歩道は整備されていて200mほどの登りで、頼山陽の詩碑が立つ山頂に着いた。石碑のすぐ脇に上部を僅かに出した578.5mの三角点があった。平均高度550mの石飛高原の小丘に過ぎないような山頂だが文政元年に大口市から水俣に入った頼山陽が『桜岳在吾後 阿蘇在吾前』と詠んだ雄大な風景が展開する。すぐ西には特異な山容の鬼岳が頭をもたげその右手に水俣湾が夕日に輝き、東には薄く霧島連山が望まれる。(田上・記)

『県境の山』10月第2例会

平成13年10月31日(水)

区間番号(65)(66)熊本県水俣市/鹿児島県大口市

山木場県界 ㊦472m ㊧ 617.3m

大川県界(県道15号)入吉~水根線 約550m

亀齢峠県界 ㊨ 579m

秋晴れの空に誘われ、ひとりででかける。熊本市から国道3号線と国道268号線を乗り次いで車を走らせる。3時間かかって水俣の山木場県界についた。南へ樗谷林道を分岐するが、道路を挟んで472.4mの水準点と南国バスの樗谷停留所がある。北側県境線沿いの狭い林道に車を乗り入れる。ほどなく雨量計が設置された建物の前に入る正式には(建設省国土院管理 五木雨量観測所)という。北東約2Kmにある三角点をめざして車を進めたが、ヒノキ植林後は使用されていないのか路面は草が生い茂り荒れ放題。早々に車を置いて歩くことにした。10分ほどでプレハブの作業小屋の前にてた。そこから北へ転じた踏跡は、県境線を越える鞍部に続く。東へのびる県境尾根の僅かな踏跡を辿る。倒木を避けて迂回しているうちにトレイルも消え、ヤブ分けをして尾根上に這い上がる。三角点かと近づいてみたが、『山七八三』と刻字された標石だった。西側斜面が伐採されて眼下に市木の集落が点在し、正面に特徴ある鬼岳のピーク、はるかに紫尾山が霞んで見える。東へ主稜線を10分ほど登りつめると、スギ植林にかこまれた617mの三角点標(2等)についた。

きっかり11時。スギ木立ちの中で展望はない。1時間かけて往路をバックする。途中何度かイバラに絡まれたがポケットに突っ込んでいた地図が無くなっていたのに気づかなかった。

山木場県界から、大口市山野まで南下し山野川に沿って布計まで北上する。狭い谷間に2, 3戸づつ点在する布計の集落はまったく人影を見ない。道辺のバス停は、かつて国鉄山野線が通じていた頃の『布計駅前』や、既に廃校になった『布計小学校前』がそのまま残されている。ここから道路は県道15号線(吉~水根)となる。大川県界(約550m)までは車で5分の上り。峠を越えて熊本県水俣市久木野地区の大川まで下る。ここは『大川自然環境保全地域』に指定され、古い山村のたたずまいが残されている。再び県界の峠まで取って返し、県境沿いの林道を南下して846.2mの三角点をめざしたが、草がかぶり廃道に近い林道は通行不能。どのピークか特定出来ないまま、往路を山木場県界まで引き返す。樗谷林道を県境線沿いに西の山野西小学校まで行き、北へ折れて亀齢峠県界を越える。亀齢峠の山頂(三角点)に登り、『頼山陽』に倣い広闊な展望を楽しむ。昔と異なり空の冴えがイマイチで、『桜岳在吾後 阿蘇在吾前』の雄大な眺望を得ることはできなかった。後ろに霧島山、前面に八代海と天草島の山々ならよく見えたのだが…

(亀齢峠) 頼山陽が「亀嶺」と呼ぶまでは、通称「亀坂」といわれ、徳富蘇峰は「萬寿山」と名付けた。かつては薩摩街道の要衝であった。

『県境の山』 11月例会

平成13年11月25日(日)

区間番号(67)水俣市/鹿児島県出水市・大口市 .5万円 陽出

参加者 本田誠也 田上敏行 池崎浩一 藤本多加志 丸尾謙一

無線山 ▲Ⅱ 664m ▲Ⅱ 626.8m(牧場)

鬼岳 ▲Ⅱ 734.9m 亀齡峠 ▲578.5m

▲Ⅱ 564.9m(五女木牧場)

県境の山も愈々大詰めを控えたこの日、常連メンバー5人が顔を揃えた。76歳の池崎浩一さんを筆頭に、平均年齢67歳強のそうそうたる熟年パーティである。早朝7時、丸尾さん、藤本さんの自家用車に分乗して県南の水俣を目指す。今日は東から西への順路ではなく西端の無線山からはじめる。地図には山名の記載はないが、広い山頂台地に逡巡省時代から無線中継所があり地元の人たちは無線山と呼んでいた。水俣市街地から県道118号線で湯出温泉を通過、頭石川(かづめしがわ)を溯行する。約2Kmで頭石の集落に入る。左岸に渡り狭い羊腸の林道を上がる。途中から、かつての無線中継所、現在はNTTコミュニケーション(株)の専用道路となり僅か15分で標高差約400mを駆け上がり、高いパラポラアンテナが立つ無線中継所に着いた。三角点は密生した照葉樹林のトンネルをくぐり西南へ400m、丈の高いススキの下にあった。下りは早い約10分で頭石集落に着き県道を南下する。分岐路から西回りで県界を越え暫く平坦な道を走り民家が点在する開拓地から北東に針路をとって未舗装の林道に入る。県界から約2Km北にある鬼

岳に登るまえに、県境線上にある627mの三角点を探がす。林道が北に曲がるところに車をおき、ヒノキ林の下藪を分けて登ると、南へ緑のスロープが広がる三市(根柿/出柿/大市)の境に出た。我々の姿を見て牧場の番犬群が一斉に吠えたてる。牧草を踏んで境界線沿いに200mほど西へ行くと、枯れススキの中に三等三角点の標石が頭を覗かせていた。南側は標高500mを越える高原が幾つもの牧場を連ね、牧歌的な風景を展開している。次いで県境線に沿って2Kmほど北上し、直角に西へ折れて鬼岳林道に入る。このあたりは鬼岳を頂点とする一辺約2Kmの三角形の台地でスギ、ヒノキの植林地帯。迷路のように林道が交錯し方角が掴みにくい。台地の端に大鐘を伏せたような形の鬼岳の登山口には、『鬼嶽神社』の真新しい丸木の鳥居が建っている。密生した照葉樹林の急坂を15分程で、きっかり12時に山頂についた。2等三角点の標石の先にブロック積みの祠が建つ。以前は手置帆負命と彦狭知命の二神を祭っていたが、朱塗りの武神『タカガミサン』が鎮座している。山頂からの展望は雑木に遮られて定かではない。樹の間越しに矢筈岳の双峰と、遥かに紫尾山が霞む。石飛を経て県界の亀齡峠に立ち寄り、東方にのびる県境線を見渡した後、大口市五女木の野下牧場から県境線を西へ藪分けして564.9m三等三角点を踏んだ。1時間半かけて往復したが『県境の三角点を捜している』と言ったら、野下さんは『?』と呆れ顔だった。(本・記)

『県境の山』12月例会(最終回)

平成13年12月10日(日)

区間番号(68)水俣市/鹿児島出水市 2.5万回陽出 陸/津

矢筈峠350m 矢筈岳 ΔI(嶺)687m

境川 神ノ川(淵)八代海岸 ΔIV

参加者 本田誠也 工藤文昭(支賑)

田上敏行(耕子・観) 菅 隆雄

鶴田佐知子 廣永峻一

藤本多加志 丸尾龍一 10名

平成10年9月8日、県北(観師)の有明海岸から県境歩きの第一歩を踏み出して3年が過ぎた。今日は、その最終ラウンド。幸い人数も揃い、お天気もよい、皆わくわくして工藤支部長を先頭に矢筈林道の登山口から登り始めた。スギ植林地のジグザグ道を抜けると、伐採跡の明るいカヤトの斜面。右前方に雌岳(610m)の山頂が迫ると、ほどなく境川へ乗越す鞍部についた。

ここまで25分(10:05-10:30)西の矢筈本峰(雄岳)から下ってきた県境線は、ここで直角に北へ折れ熊本・鹿児島両県を分ける境川となって八代海へ注いでいる。一息入れて美しい照葉樹林の急坂を登る。いつの頃からか県境歩きの常連になった叡一クン(吐新氏の甥)がトップとなり、マシラ(嶺)のように駆け登る。10時50分、きっかり20分で一等三角点がおかれた矢筈岳山頂についた。誰もいない山頂を私たちが占有する。22年前(1979.2)ここで雄叫びをあげた今西錦司先生を偲び、三角点を囲み杖を振り上げて今西コールを三唱する。山頂から一段下がった北側

に石祠(矢越神社)があり、その先の岩壁の上から八代海、天草諸島の展望がよい。県境線となる境川を俯瞰して少し早い昼食とする。

田上さん差し入れの銘酒で乾杯、記念撮影も念入りに何回も撮る。ぼつぼつ登山者も登ってきたので、11時40分山頂を譲って下山する。鞍部までおりて、ドライバー組は車を境川に回すため先行する。本田ほか5名は南へ境川の谷を目指して下る。直下に雌岳を回りこんできた林道があり、かつての踏み跡は消えて無いので、西へ林道を歩く。500mほど歩いたところで、山頂からの登山道が林道を横断しているのを見つけ谷へ下る。境川の枝谷と思われる幾つかの小谷を越え、大きく山腹を巻くスギ林の道を行く。石積みの炭焼窯跡が点々と現れ本谷に近付いたことを知らせる。鞍部を出発して、きっかり1時間で林道終点についた。よいタイミングでエンジン音がして迂回した車があがってきた。4Kmの境川林道を10分余で走り抜け、高速道路工事で様変わりした国道3号線に出た。JR線のガードをくぐり、境橋から県境の神ノ川集落をぬけると、前方が大きく開け境川河口、八代海岸についた。河口の右岸(嶺)に沿って100mほどの防波堤がのび、内側は舟溜りになって3、4隻の漁船が繋がれている。ついに終曲、喜びがこみあげてきた。田上さんが用意した『県境踏査完成記念』の横断幕を掲げ記念写真を撮る。防波堤の基部にIV等三角点を発見、まさに有終の美を飾ったと大喜び… (本・記)

編集後記

本 田 誠 也

ともかくも、『熊本県境を歩く』は終わりました。県境線上のポイント(三角点標識)で若干の積み残しはありましたが、それは補遺として本年の秋以降に歩いて完結させたいと思っています。ルートとして興味の薄い所、例えば県北の荒尾・大牟田県界や、小国盆地西側の丘陵地帯、県南の槻木川右岸の山々、肥薩県境東部などは、殆ど私(柵)が一人で歩くことになりました。それでも新しい発見があり、その喜びから遠路を厭わずに出かけたものでした。

県境を歩きながら考えたことは、境(さかい)とは何だろうと云うことでした。境には、小は個人の所有権の境から、集落の区界、郡市町村界、県界、そして大は国家間の国境まであります。我が国の県境の場合、多くは旧藩政時代の領地界になっていますが、長年の歴史的な経緯によって決められているようです。

一般的には海洋、河川、湖沼(沼) 山脈、分水嶺などの自然の地形によって区分されていますが、なかには住民の伝統、慣行などから人為的に決められているものもあります。実際に県境を歩いてみて、その形が多種多様であることを感じました。夫々の地域毎、幾多の変遷を経て現在の形になったと思いますが、歩き終えた今、凡その熊本県の形を見ることができたと思います。

今西錦司先生の日本1500山登頂には、全国の一等三角点の山が網羅されています。『一等三角点の山に登ることで、日本列島を眺め渡すことになるんや』と云っておられたことを思い出します。今西先生の三角点行脚は『国のかたち』を見ることであったと考えられないでしょうか…

今年度、支部内外24回の行事に、延べ151名の支部会員が参加しました。そのうち『県境の山』は11回、33名で最終回を迎えました。幾分尻細りの感は否めませんが、最後は10名の参加を得て八代海岸の防波堤に立ち、天草諸島の山々を眺めながら快哉を叫びました。

新年度の間近い目標は『新日本山岳誌』の原稿の取りまとめです。既に半数に近い執筆者から原稿が届いています。まだ当分は山に行けないデスクワークが続きそうです。それと、工藤支部長が『2005年度までにやらねばならぬこと』に書いている全国支部懇談会の熊本開催の構想も話し合わなければなりません。今号には、支部設立45周年を記念して、巻末に『広告』を掲載しました。ご賛同いただいた方々に、深く感謝いたします。

祝

熊本支部設立45周年記念
熊本県境踏査達成

熊本市紺屋町2-11
神谷内科医院
神谷平吉

☎(096)354-4121
FAX(096)355-6517

シエルパ

祝 日本山岳会熊本支部設立45周年

熊本の岳人の登山用品専門店

山の店 シエルパ

熊本市新屋敷1-14-30
☎シエルパ代表 阿南誠志(日本山岳会員)
☎(096)362-9585

SHERPA

旅のことならおまかせください!

(有) 西南旅行

☎61-4131 熊本市薄場町3-11-5
☎(096)357-0101
FAX(096)357-7559
E-mail:seinanr@hkg.odn.ne.jp